

# 海外生活 エッセー

シンガポール事務所

## シンガポールリアンの生活を覗く ~現地の生活費事情から~

シンガポール事務所所長補佐 三原好太郎 (鹿児島県派遣)

### → シンガポールの生活コストは世界で一番高い?

英誌エコノミストの調査部門エコノミスト・インテリジェンス・ユニット (EIU) が毎年発表する世界主要都市の駐在員生活費指数ランキングによると、シンガポールは2013年に引き続き、2014年も第1位となりました。同ランキングは、世界133都市を対象に食品や日用品、交通費、学費など品目やサービスの価格を調査し、それら物価を米ドルに換算し比較を行っているものです。

### → シンガポールの生活費事情から

シンガポール統計局のデータによれば、シンガポールの月間世帯支出額は4,724S (シンガポール) ドル (約42万5,000円 ※1Sドル=90円換算) で、世帯支出配分は下図のとおりとなっています。今回は世帯支出の大きい費目に着目し、現地の方々の生活を紹介したいと思います。

#### 第3位 住宅関連費 (14.5%)

シンガポールでは国民が自分の家を持つことが政治的、経済的にも社会の安定に繋がるとの考えから、個人の持家が推奨されています。日本の持家率は60%前後ですが、シンガポールの場合、2012年の統計では国民の81.6%が公営住宅 (HDB) に居住し、国民の持家率は90.1%と非常に高くなっています。ちなみに、住宅開発庁が公示する2013年の新築・90m<sup>2</sup>のHDBの平均価格は、304,000Sドル (約2,736万円) となっています。

#### 第2位 交通費 (17.2%)

シンガポールでマイカーを持つには高いハードルがあります。自家用車を購入するためには、自動車所有権証明書 (COE) を政府から購入する必要があるため、例えば、2015年5月~6月では1,600cc未満の乗用車のCOEを取得するには61,000Sドル (約549万円) が必要でした。また、日本車も日本の価格の4~5倍となることも珍しくありません。高額なマイ

	2013年
支出額	4,724Sドル
支出配分総計	100.0%
食費	25.1%
食料品・飲料	8.9%
外食	16.2%
住宅関連費	14.5%
医療費	5.5%
交通費	17.2%
娯楽費	6.6%
その他	31.1%

図 消費財・サービス別の月間世帯支出配分 (Household Expenditure Survey 2012/2013)

カー保有ですが、世帯のマイカー保有率は2006年の38.5%から2011年には45%まで増加しています。

一方、公共交通は廉価であり、バスや地下鉄の初乗りは0.79Sドル (約71円)、遠距離でも3Sドル (約270円) 前後です。公共交通のカバーエリアは広いうえ、便数も多く大変便利です。また、タクシーも初乗り3.6Sドル (約324円) からと日本よりも格安となっています。

#### 第1位 食費 (25.1%)

シンガポールの世帯支出のうち約4分の1は食費に充てられ、中でも外食の割合 (16.2%) が高くなっています。日本の2014年家計調査報告によると食費の割合は26%とシンガポールと同程度ですが、そのうち外食への支出は約5%と、シンガポールとは大きな差があります。シンガポールでは共稼ぎの一般化により、「1日3食が外食」も珍しくなく、シンガポールでは外食の多さが食費支出の増加につながっています。現地の人々の胃袋を満たすのは大衆屋台食堂 (ホーカー・センター) で、一食当たり3Sドル (約270円) 程度から米や麺料理を食べられます。

### → おわりに

シンガポールでは車両購入や嗜好品など他国に比べかなり高額なものがある一方、基本的な生活インフラは比較的安価といえます。シンガポールへ来る前は、生活すべてにおいて費用が高い国としてシンガポールを認識していましたが、実際に暮らしてみると公共交通料金や光熱水費をはじめほかの国々より費用の掛からないものも少なくないと実感しています。今後も安価な生活インフラが維持されることを祈りつつ、充実した公共交通やホーカー・センターにお世話になる予定です。



大衆屋台食堂 (ホーカー・センター) の様子